

## 杉本 憲一 さん

### 【中小企業診断士を目指した理由】

50歳を過ぎ、定年や役職定年が視野に入ってくる年齢となった自分を振り返った時、会社ではなく個人としての肩書の必要性を感じ始めていました。

会社で企画管理の仕事をしていたこともあり、自分の特性を伸ばして、現在の仕事にも、将来のキャリアにも活かせるような資格と感じ、中小企業診断士を選びました。

### 【受験履歴】

2015年 大手予備校ストレート合格コース

一次試験 合格

二次試験 不合格

2016年 MMC通学コース

二次試験 合格

一年目は大手予備校のストレート合格コースを受講。1次試験は総得点でギリギリ突破しましたが、2次試験はBBBAのB評価で不合格でした。

### 【1年目の2次試験】

1年目の受験で痛感したのは、1次試験と2次試験は全く別の試験であるということ、そして1次試験合格後2ヶ月半で、この全く別物の2次試験に対応するのは極めて困難であるということでした。予備校の過去問重視の方針に従い、平成13年からのすべての過去問に取り組みましたが、何を問われているのか、何を書けば良いのか、解法もつかみきれないまま本試験に突入したため、合格する気は全くしませんでした。事例Ⅲでは残り15分で回答用紙の右半分が真っ白なことに気づき、書きなぐるように埋めたのですが、(後日個人情報開示請求で確認すると)その事例Ⅲで意外に得点が高かったため、一体どういう採点基準なのか、ますますわからなくなってしまいました。

### 【MMCとの出会い】

1次試験合格の権利は2年で消滅するので、何としても2年目で2次試験の合格を勝ち取りたいと思いました。ただそのためには、学習法を変えなければならないとも感じていました。

MMCは、2次試験対策の武器や知恵を身体に叩き込んでくれる上に、合格率も非常に高いとの評判をネットで知り、まさに自分の求める指導校だと思いました。2次試験の結果通知を受け取った翌日に土曜日の通学コースを申し込みましたが、その週末には満席のため申込受付終了となっていたので、これは絶対すごい学校だぞと思いました。

### 【MMCでの学習】

MMCでの講義は一言で言えば、私にとって通う度に血となり肉となる実感を得られる、そういった時間でした。年末に教材が届いた時には、「なんだ、過去問と解答解説ばかりじゃないか」とちょっとがっかりしたのですが、年が明けて実際の通学講座を受け始めると、その落胆は全くの間違いであったことがわかりました。

MMCでは、最初の Step で解法の基本講義が終わると、Step2 からすぐ答練に入ります。そして解説では、単に正解を説明するのではなく、その解法やコツ等のテクニックを、我々受講生を指して答えさせながら（前の方に座らなくても満遍なく指されます）指導してくれます。それによって、①題意を正確に捉える、②因果関係で導く、③多面的に切り口を持つ、④キーワードで書く、という基本を繰り返し教え込まれることで、それらが自然と身に付いていきました。

合格者の学習体験を拝見すると、朝早く起きて1日1事例は解いたという方もおられますが、体力のない私にはそのような無理は続かないだろうと思ってやりませんでした。やったことは次の4つだけです。

- ① MMCの講座には休まず通う。再答案は3日以内に作成し必ず提出する。
- ② 問題・改善のキーワードを加えたMCサークルをPower Pointで作成し、それを携行して時間のあるときに見て暗記する。
- ③ 講義のノートや答練の添削コメントから、盗むべきテクニックやコツをピックアップし、事例ごとに一覧にして暗記する。
- ④ Step2から配られる財務会計の応用計算問題と、GWの財務事例徹底特訓講座でもらった問題集は、1日1問のペースで3回転以上繰り返す。

そして答練では、準備した「解答の金型」「切り口（面）」「キーワード」で解答を書くことを徹底して意識しました。

### 【本試験当日】

当日は門の前に中居先生が立っておられ、「落ち着いていつも通りに。わけのわからない問題は適当に流して。」と最後のアドバイスをくださいました。

本試験問題は、トレーニングである答練や模試とはヒントの見つけやすさ等が異なります。しかし学んだ鉄則を崩さなければ道は開けると信じ、午前中の2事例は落ち着いて淡々と終えることができました。ところが午後の事例Ⅲでこの落ち着きが崩れました。設問が4つしかなく160字が2つもあるという近年ないパターン、しかも弱みばかりが目につき強みが見つけられない与件文に、動揺してしまっただけです。それでも今までのパターンを思い出し、何とか見栄えだけはそれなりの解答を書きましたが、中身は全く自信がありませんでした。それゆえ次の事例Ⅳはある程度出来た感触があったものの、「事例Ⅲで足切りになるかもしれない。ギリギリC評価でも事例Ⅳで80点以上ないと厳しいかもなあ。」と暗澹たる気持ちになりました。

### 【合格】

それからの1か月半は、「ああ、何であんな事を書いてしまったのだろう。またあの1次試験を受けなければいけないのか。」「いや、ひょっとしたら意外と部分点が入っているかもしれない。あきらめずに口述試験対策もしておこう。」と毎日のように揺れ動く不安定な精神状態が続きました。

合格発表日は出張先の工場に居たのですが、10時過ぎに結果がHP上にアップされているのを見つけ、「ええい、どうにでもなれ」とクリックしたら、何と自分の番号があるではありませんか。真っ先にMMCに電話したところ、中居先生が出て下さり、「いやあ、良かったです」と喜んでくださいました。

### 【1年間を振り返って】

MMCのカリキュラムには無駄がありません。私は当初マスターコースAの模擬試験なしを申し込んでいました。しかし実力を確認するには節目ごとの模擬試験は必須と感じて毎回追加受験し、また直前期の独学に自信が持てなかったため直前対策も追加しました。結果、受講したカリキュラムはマスターコースVを受講したのと同じことになりました。

また毎回講義の最後におこなう財務会計の応用計算問題や、GWの財務事例徹底特訓講座など、財務の教材の充実は非常に力になりました。事例Ⅰ～Ⅲは問題の性質上安定して70点台を取るの難しいと思いますが、事例Ⅳは答えの正誤がはっきりしているため、計算力を上げれば確実に得点がアップし80点以上を取ることも不可能ではないと思います。MMCが提供してくれた教材と講座、そして何よりもユーモアを交えながら情熱的に指導して下さった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。